

製品名: MEK-4 (リン酸化 Thr261) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05010**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP2K4
別名	MAP2K4; JNKK1; MEK4; MKK4; PRKMK4; SEK1; SERK1; SKK1; Dual specificity mitogen-activated protein kinase kinase 4; MAP kinase kinase 4; MAPKK 4; JNK-activating kinase 1; MAPK/ERK kinase 4; MEK 4; SAPK/ERK kinase 1; SEK1; Stress-activated pro
遺伝子 ID	6416.0
SwissProt ID	P45985
免疫原	抗血清は、Thr261 のリン酸化部位周辺のヒト SEK1/MKK4 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 227-276

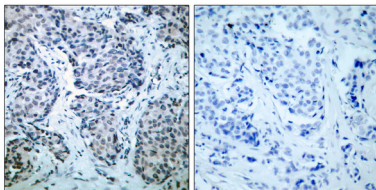
背景

この遺伝子は、マイトジェン活性化プロテインキナーゼ (MAPK) ファミリーのメンバーをコードします。このファミリーのメンバーは、複数の生化学的シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達など、様々な細胞プロセスに関与しています。これらは、MAPKKK、MAPKK、MAPK からなる 3 層シグナル伝達モジュールを形成します。このタンパク質は、MAPKKK によってセリンおよびスレオニン残基がリン酸化され、続いて下流の MAPK 標的タンパク質のスレオニンおよびチロシン残基をリン酸化します。マウスでは、同様のタンパク質が肝臓の器官形成に関与することが報告されています。この遺伝子の偽遺伝子は、X 染色体長腕に位置しています。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013 年 7 月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。機能: JUN キナーゼ MAPK8 (JNK1) および MAPK9 (JNK2) ならびに MAPK14 (p38) を活性化するが、MAPK1 (ERK2) または MAPK3 (ERK1) は活性化しない、二重特異性キナーゼ。PTM: MAP キナーゼキナーゼによる Ser/Thr のリン酸化によって活性化される。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: SPAG9 と相互作用します。組織特異性: 骨格筋で豊富な発現が見られます。他の組織でも広く発現しています。

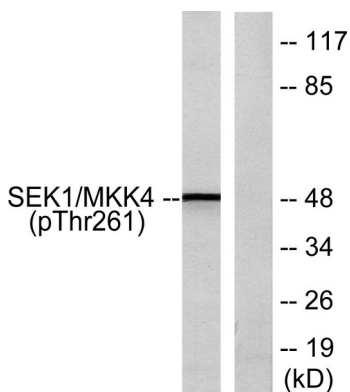
研究分野

血管新生の制御、幹細胞経路、アクチンダイナミクスの制御、Toll-Like、細胞増殖、ErbB/HER、B 細胞受容体、MAPK_ERK_Growth、MAPK_G_Protein

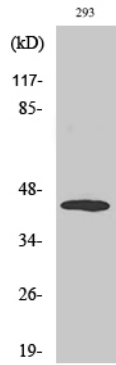
画像データ



SEK1/MKK4 (リン酸化 Thr261) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



SEK1/MKK4 (リン酸化 Thr261) 抗体を用いた、UV 15 '処理した 293 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 MEK-4 (T261) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析